

早稲田大学インクルーシブ教育学会 ニュースレター

2025 年度（令和 7 年度）No.1

これからの通常学級におけるインクルーシブ教育の方向性 ～スウェーデンから学ぶ～

すべての子どもたちにとってよりよい学びの場をどう作っていくか、多様な子どもたちを前に個別最適のエッセンスをどう入れていくのか、インクルーシブ教育を真剣に考えるとき、こうした悩みに直面することはありませんか？

今回の研修では北欧における特別ニーズ教育のシステムと実践をご専門とする是永かな子先生にスウェーデンの教育システムやインクルーシブ教育の現状、日本の通常学級の実践事例を見ながら、個別最適な学びとは具体的にどのような活動について考えていきました。

講師 高知大学教授 是永かな子 氏

スウェーデンの教育システム

スウェーデンの教育システムには、視覚障害・肢体不自由・病弱の特別支援学校を廃止し、知的障害の学校の市町村立への移行している点に特徴が見られます。特別学級は設置せず、支援が必要な子どもについては、特別指導グループや基礎学校通常学級内で特別な支援がなされます。一部抽出をして特別支援を行う場合があるものの、必要なときに必要な支援を受けられるシステムになっています。そして、スウェーデンでは全ての子どもが個別計画（IUP）を有しています。より支援が必要な子どもには対応プログラムが作成され、すべての子どもに対してカリキュラム保証の素地があるといえます。

スウェーデンにおけるインクルーシブ教育の現状

スウェーデンでは 2023 年 7 月より「知的障害特別学校」を「支援付基礎学校」に名称変更をするなど多元的インクルージョンを目指す方向性が見られます。スウェーデンの教室で実践される学習方法は柔軟であり、個別最適の視点と同時に協働的な視点にも意識が向けられています。

例えば、授業で扱うテキストは、同じ内容でレベルの異なる 3 つのテキスト（表現方法に工夫がされている）が使用されます。同じレベルの子どもたちは一緒にグループで互いに対等な関係を築きながら勉強を進め、教師は支援が必要なグループにつきまします。他のグループは協働で学んだり、自力で課題に向かったりしていきますが、わからない時は友達に聞くよう教師が促しながら“子どもたち同士で学びを深めていく雰囲気”をつくっています。

また、教室では話を聞いているなら姿勢は問わない、他人に迷惑をかけなければ動いていてもよい、一緒に学ぶのも OK、一人で学ぶのも OK、スマホも OK、教科書を使っても補助教材を使っても OK など、自分に合った方法を選択できます。そのため、学習を諦めていない子どもたちは多い。そうした印象深い報告もありました。

日本の通常学級の実践事例

是永先生は、日本の小学校と高校での取り組みの例を紹介し、教師は教えることよりもフィードバックをすることに意識を向け生徒間をつなげる役割を担うこと、学習者が自分に合った学びを選択し集団としての成長を両立させることに目を向けていくこと、これらの重要性についてお話ししてくださいました。

例えば、高等学校の英語の授業でも、学習のオプションとして、①リスニングで学ぶ、②ヒントカードを見る、③単語学習アプリを活用する、④集中スペースで学ぶ、⑤ペア・グループで学ぶ、⑥先生と学習するなど、どのような環境をつくるかという視点に立つことで複数の選択肢が生まれます。このように、日本においても取り入れることは可能です。日本とスウェーデンの教育の良い点を互いに学び合い、児童・生徒にとって学びやすい環境をつくることの大切さを是永先生は伝えてくださいました。

個別最適な学びとは具体的にどのような活動か

ここまで、スウェーデンと日本のインクルーシブ教育の現状や実践事例についてお話ししていただきましたが、改めて『個別最適な学びとは具体的にどのような活動か』について考える起点となるスウェーデンの事例を紹介してくださいました。

- * 小学校3年生の算数支援アプリ NOMP では高等学校数学の単元まで網羅されている
- * 時計はアナログ時計、デジタル時計、タイムタイマー、砂時計の複数が準備されている
- * 誰でも使える手遊びのための教具、座っていられるためのクッション、イヤーマフが教室にある
- * 「正義とは、誰もが必要なものを手にいれることである」という意識を持っている

どれも日常の中にある重要な視点といえます。さらに是永先生は、北欧のアナログ教材回帰の話題にも触れてくださいました。日本でもデジタル教材を多用しすぎることによって協働的な学びが置き去りになることがある。確かにその通りです。しかし大事なことは、教師自身が共に学ぶ集団をどうつくっていくのかということを考え続け、具体的な環境整備や学習方法の工夫を実践しながら、子どもたちにも“共に学ぶ”ことを発信していくことが重要だと感じました。是永先生、学び多き時間をありがとうございました！

ご参加頂いた皆様からの感想《一部抜粋》

「子供を信じること」、そしてその具体的な実践としての「暇な時間をつくらない授業づくり」というお話には、大きな納得を覚えました。（中略）「わかりすぎても、わからなすぎても授業が暇だった」自分自身のこうした体験を思い出すことで、確かにもっと子供を信じて任せてもよいのだ、と実感しました。

個別最適な学びかつ協働的な学びを促進できる環境づくりに必要なことを考えていきたいと思います。日本も今後さらにグローバル化が進み、ひとりひとりの学び方が違うことが前提となっていくと思われます。同質という幻想や同質にしなければという強迫から自由になり、異質な他者および異質な自己を尊重し合えるような世界を築いていけたらと思いました。

聴覚障害者に対する手話バイリンガルの権利保障という考えは自分には新しかったのですが、日本においても、他の障害に比べて通常学級における聴覚障害者への支援の実践報告が少ないことも、どこかで繋がっているようにも思いました。

今後の研修会のご案内

第一回研修会

学びの多様性を活かした授業づくり ～ 思考力・探究力を育てるグループ活動～

日時：2025年7月20日（日）13：00～16：00

講師：宮城県公立高等学校〈教諭〉市川 泰斗氏 〈教諭〉村上 真由美氏

番外編研修会

子どもが自分の課題に向き合うために ～ 自己理解を促す話しの聴き方～

日時：2025年8月17日（日）9：00～12：00

講師：早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授 本田恵子氏